

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：32658

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530808

研究課題名（和文） 日英史料による西周の普通学（コモンサイエンス）に関する研究

研究課題名（英文） Nishi Amane's "Common Science" from the Japanese and British Archives Perspective

研究代表者

熊澤 恵里子（KUMAZAWA ERIKO）

東京農業大学・教職・学術情報課程・教授

研究者番号：90328542

研究成果の概要（和文）：普通学は当時、英国ではジェネラルサイエンスと称されていた。しかし、西周はその言葉を直接移植するのではなく、独自のコモンサイエンスを創り出した。18-19世紀の英国ではコモンズ、コモンセンス、コモンルーム等、「市民」に関するキーワードが数多く生み出されており、西周の「普通学」ならびに市民観にインスピレーションを与えたと考えられる。西は儒教的思想を基礎として西洋の学問体系を再構成し、新たな概念化を図った。新興勢力を市民に置き換え、日本の近代市民社会を担う人材育成に必要な一般教養を「普通学」と名付けたのである。

研究成果の概要（英文）：It has been thought that the word known as "Common Science" was a translation of the British "General Education". However, Amane Nishi stated that he created an original "Common Science" without just translating the word. Some keywords related to "Citizen", such as "Common Science", "Common Room" and "Common" were produced in Britain during the 18<sup>th</sup>-19<sup>th</sup> century. When Amane Nishi built his "Common Science" and "Civil Society", it is thought that he got inspiration from those keywords. Nishi developed the western studies and bourgeois political theory based on placing importance on confucian ideas of human nature. Nishi recreated he tried to generalize the compendium of western studies based on Chinese knowledge. He substituted new power to Commoner and he named liberal arts, "Common Science", which was necessary to grow human capital to shoulder Japan's nation state.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育史

キーワード：教育史、社会史、思想史、日本史、哲学

## 1. 研究開始当初の背景

学校教育で何を学ぶのか、学ばせるのか、というテーマは、近代学校教育制度改革の中で、常に中心となる課題であり、それは各学校段階の教育課程で修得すべき学科目の設定に具現化されている。1872年の学制では、小

学校は「教育の初級」、中学校は「普通ノ学科」、大学は「専門科」を教授すると位置づけ、体系的な学科編成を行った。このような「普通ノ学科」「専門科」という二つの学問体系が、教育史に登場するのは1869年の開成学校の条文であるが、そのルーツを辿ると、

西周の「普通学（コモンサイエンス）」まで遡る。西周が「普通学」というタームを使用したのは、維新後の家塾育英舎での講義であるとされているが、その原点は、幕末のオランダ留学であると考えられる。

本研究代表者・熊澤は、幕末維新时期に考えられた二つの学問体系である「普通学」と「専門学」について考察する中で、西周の普通学について、論文「学制以前における『普通学』に関する一考察」、「『普通学』の概念の変遷と市民観」などを発表し、西周が「普通学」により、ヨーロッパの近代市民社会を支える教養教育に匹敵する学問体系の構築を試みたことを指摘した。また、公開シンポジウム「地方から発信された学問の教育史的意義」において、「福井藩・福井県における『市民』の育成」と題して、福井藩における武士の教養としての「普通ノ学」の誕生から「市民」教育への移行について論じるなど、「普通学」に関する研究業績を蓄積している。

西周の研究については、近年、哲学的分野、政治思想史の分野から活発に行われているが、教育史分野では、「軍人勅諭」との関連性から論じられることが多い。特に幕府瓦解後、沼津兵学校頭取をつとめたという経験から、軍事教育との関係が強調されている。本研究代表者・熊澤は、西周を学者、教育者として高く評価し、彼が同時代人に与えた影響力に注目した。西が起草した沼津兵学校の学校規則は、教科が多岐にわたり、いわゆる専門以前の教養的要素が強い。この兵学校規則が、後に西が講じた「普通学（コモンサイエンス）」として完成するのである。専門教育と前段階として、幅広い教養教育が日本人に必要であることは、すでに幕末の来日外国人に指摘され、幕府教育機関でも改革がなされた。維新後は教育が庶民にも開放され、教養教育も全人民を対象として再構築される必要があった。西は、近代日本を担う新しい政治体制をささえる「市民」の育成を新しい学問体系としての「普通学」により具現化しようとしたのではないか。

## 2. 研究の目的

本研究は、幕末維新时期に活躍した西周が家塾育英舎で講じた「普通学（コモンサイエンス）」を日本型市民社会を創出するための市民に必要な学問体系の一つと捉え、西がどのような市民観に立ち「普通学」を構築したのかについて、日英史料により、歴史的、思想的な解明を行うものである。

本研究において日英史料の分析は最も重要な作業である。なぜならば、西周は、自身の理想を江戸時代の君主を中心とした少数の政治ではなく、議会を中心に集団がリードしていくという市民社会、すなわち、当時の英国の政治体制に見出しており、その英国

の政治・社会・学問を熟考した上で新たに独自の「普通学（コモンサイエンス）」を構築しているからである。

明治10年代後半には、明治政府の政治体制は英国型ではなく、ドイツ型の中央集権的国家体制の選択が決定的になるが、それ以前の試みとして、議会を中心とした市民社会を目指した西が、どのような市民観を持ち、そのために構想した「普通学」とはどのようなものなのか、日英史料により明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究の柱とする英国における史料調査では、西周が近代日本の理想像として研究を重ねた19世紀英国市民社会における市民と市民教育に関する史料調査並びに文献検索を実施した。西周が近代日本を支える市民に必要な「普通学」を「コモンサイエンス」と称したのはなぜか。現在も一般的に使用されている「ジェネラルエデュケーション」では、なぜいけなかったのか。なぜ「コモンサイエンス」なのか。これを解く鍵が、コモン、コモンズに秘められていると考える。コモンズが経済的・社会的・政治的に次第に権限を獲得していく、その変遷過程を社会史的アプローチにより検討し、西周の「コモンサイエンス」との関連性を追究した。

英国史料調査における調査項目と主な閲覧先は、以下の通りである。

### (1) コモンの語源、階級性

オックスフォード大学ボドリアン図書館  
オックスフォード大学サイエンス図書館  
ケンブリッジ大学図書館  
大英図書館

### (2) コモンルームの歴史、過去と現在

オックスフォード大学図書館：本大学はコモンルームを創設したことで知られており、その創設された社会的背景も考慮しながら、調査を進めた。

ケンブリッジ大学図書館：本大学は理数系に優れた学者を数多く輩出している大学であり、オックスフォード大学の比較対象としての存在である。

サイレンセスター王立農学校

### (3) コモンの生活史：言葉の持つイメージ、日常生活での使われ方、本音と建て前を研究者をはじめ一般スタッフに取材

オックスフォード大学等日本研究者  
王立農学校他一般の教職員

## 4. 研究成果

### (1) 西周の「普通学」とは

西周が「普通学」という名称を使用したのは、1870年に開設した家塾育英舎で講じら

れた「百学連環 Encyclopedia」講義においてである。育英舎は、福井藩士のために設けられたもので、沼津兵学校からの転入組が多くを占めていた。藩命による修業名目には、「政事学」と記されている。「百学連環」では、学術を「普通学」Common と「殊別学」Particular の二つに分類し、「普通学」は、「歴史 History、地理 Geography、文章学 Literature、数学 Mathematics の四学で、「殊別学」は「心理科学 Intellectual Science と物理科学 Physical Science」、今日という人文科学と自然科学に分類した。また、「普通学」の第一として歴史を上げている。今を知るにはまず古を知るという方法が明示されている。これは、すべての事象が進化発展するものであるという思想に基づいており、それゆえ、歴史は「普通学」の第一番目に挙げられるのである。「普通学」は、学問全てに関わる基礎となる点において、ヨーロッパにおける教養教育を彷彿とさせる。政事学は、「殊別学」の心理科学に属するものであり、その解説において、西は、英国の立憲制度を賞賛し、「天性」を重視した儒教的思想を基礎に西洋の学問とブルジョア的政治理論を展開している。つまり、それまでの君主を中心とした少人数の政治から、議会制により集団がリードしていくという、市民社会を基本としていた。イギリスの政体を良しとする主張は、西に限らず、中村正直をはじめ、当時の知識人の歴史認識として広く行き渡っていた。西は漢学の知識を基礎として西洋の学問体系を再構成し、新たな概念化を図った。新興勢力を「コモンナー」Commoner に置き換え、日本の近代市民社会を担う人材育成に必要な一般教養を「コモンサイエンス」Common Science と名付けたと考えられる。

「普通学」に宗教学は入らない。平田篤胤の古道学にも関心を示した西であったが、仏

教とキリスト教は宗教だが、神道は伝統であると結論づけている。1870 年完成の大学規則で第一教科に神教学・修身学が置かれたことを考えれば、西の判断は非常に合理的であった。

当該テーマに関しては、先行研究はほとんどない（拙著『幕末維新期における教育の近代化に関する研究』第 5 章「『普通学』の概念の変遷と市民観」参照）。「普通学」を現代の「普通教育」と同義語に解釈する研究があるが、それはコモン Common 概念の検討不足によるものではなかったか。

## (2) 英国史料調査結果

前述した英国史料調査の成果は、以下の通りである。2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災の影響により、本研究遂行に際し、多少の困難が生じたことは否めないが、概ね予定通り海外調査は執行することができた。

### 「コモン」の語源、階級性

・オックスフォード辞書を始め、ほとんどの辞書は、コモンの二つの意味、すなわち、下層階級の総称と市民、の相異なる意味を掲載している。

・宗教関係の辞書では、コモンはホリー（聖なるもの）に対峙する、という説明が最初に掲げられている。

・「階級を越えた平等」や「公の・公共の・公衆の」として使われたのは 16 世紀頃であると考えられる。

以上のことから、歴史社会的アプローチが今後期待される。コモンがジェントリーを包含する意を有するようになるプロセスを把握することは、西周の学問観、教育観を明らかにする上でも重要である。

## コモンルームの歴史、過去と現在

・グリーン著『オックスフォード・コモングルーム』(1957年、ロンドン)では、リンカン・カレッジがパティソン学長時代(1792-1884)に改革を遂げ、古典的な大学から近代大学へ変容した過程が論じられており、保守的な高等教育においてコモングルームの設置は改革の象徴として取り扱われている。

・コモングルームに象徴されるのは、高等教育への中産階級の入学であり、教養教育の意義であった。

・現在のコモングルームは、主に教員用(または教職員用)として設けられている。

今後の課題としては、貴族とジェントリーの教養教育、イングランド地方とスコットランド地方との比較分析などを実施し、西周が理想としたコモンスイエンスの対象層について検討する必要がある。

#### コモンの生活史

・コモンという語句は、現在の英国社会において好意的な意味で使用されていないケースが見られる。例えば、食事中肘をつく行為をコモンのようなと眉を顰める人もいる。また、共有財産としてのコモンプレイスはしばしば論争の対象になる。

・現代英国人もコモンの持つ下層性を無意識に、または意図的に回避している。階級制が廃止されすでに久しいが、人々の意識や生活は革命的に変化するわけではない。コモンの理解には、欧州階級社会の歴史認識と生活史的アプローチも必要である。

#### (3) 本研究成果の国内外の位置づけと今後の展望

西洋社会が示すコモンスイエンスとは、「科学教育の基礎」を指す。西周の教養教育を示すコモンスイエンスは、まさしく西の造語であった。

本研究調査の遂行過程において、英国及び欧州の日本研究者との情報交換、国際学会への参加、大会発表などを積極的に行った結果、西洋近代社会と近代日本の「市民」観の共通性と相違性など、問題の所在が一層明確化し

た。日本の教育の近代化過程において、コモンスイエンスが、ジェネラルエデュケーションに吸収されるのはいつか。西周のコモンスイエンスの独自性がどう変容していくのかなど、英国及び欧州との比較史的視座から、新たな研究の可能性も生じている。本研究は、英国及び欧州日本研究者と共同したさらなる展開が期待できる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計6件)

熊澤恵里子、他国修行 福井藩教育改革の軌跡、福井県文書館研究紀要、査読無、Vol.9、1012、1-28、

熊澤恵里子、経験知から科学知へ、新・実学ジャーナル、査読無、Vol.87、2011、1-3、

熊澤恵里子、駒場農学校英人化学教師エドワード・キンチ、農村研究、査読有、Vol.113、2011、1-13、

[nodaiweb.university.jp/noukei/no113.html](http://nodaiweb.university.jp/noukei/no113.html)

熊澤恵里子、英国サイレンセスター王立農学校を訪ねて 松平康荘農学修行の旅、東日本英学史研究、査読有、Vol.10、2011、73-80、

熊澤恵里子、駒場農学校化学教師エドワード・キンチ 終の棲家 Komaba にこめた日本への想い、東京大学史史料室ニュース、査読無、Vol.45、2010、2-3、

熊澤恵里子、松平康荘の英国農業留学、英学史研究、査読有、Vol.42、2009、161-171、

##### [学会発表](計5件)

熊澤恵里子、沼津と英学 新しい市民層の創出、日本英学史学会・東日本支部・沼津大会、2012年3月18日、ホテル沼津キャッスル

熊澤恵里子、他国修行 福井藩教育改革の軌跡、福井県文書館講演会、2011年2月12日、福井県立図書館多目的ホール

Kumazawa Eriko、Archival Research on Agricultural Chemistry at the End of 19th Century England and Japan: Based on Findings at the Royal Agricultural College、EAJRS 2010 年度大会(ジェノア)(EAJRS 2010 Conference in Genoa)、2010年9月3日、Genoa Italy

熊澤恵里子、プロイセン通訳官ケンペルマンとドクトル・ベルリン プロイセンの対日政策、日本独学史学会、国内会議、2009年7月25日、日本医科大学  
熊澤恵里子、沼津兵学校と福井藩、沼津

史談会第 49 回総会講演会、2009 年 5 月  
17 日、沼津市立図書館視聴覚ホール

〔図書〕(計 2 件)

Kumazawa Eriko、Hugh Cortazzi、他、  
Global Oriental、Britain & Japan:  
Biographical Portraits Volume 、  
2010、1-665

熊澤恵里子、橋本太朗、他、酒井書店、  
現代教育基礎論、2010、218

〔その他〕

ホームページ等

研究業績

[dbs.nodai.ac.jp/html/76\\_ja.html](http://dbs.nodai.ac.jp/html/76_ja.html)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

熊澤 恵里子 (KUMAZAWA ERIKO)

東京農業大学・教職・学術情報課程・教授  
研究者番号：90328542

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：